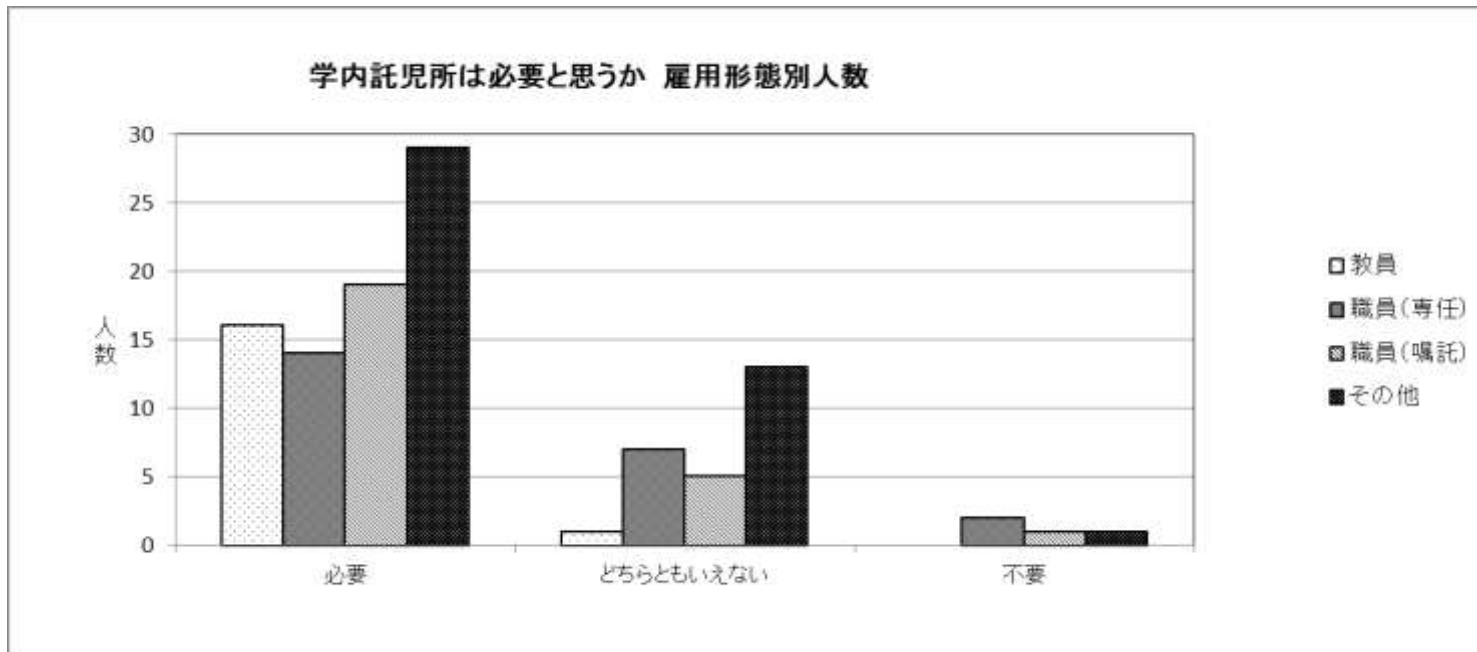


学内託児所に関するアンケート 雇用形態別分析

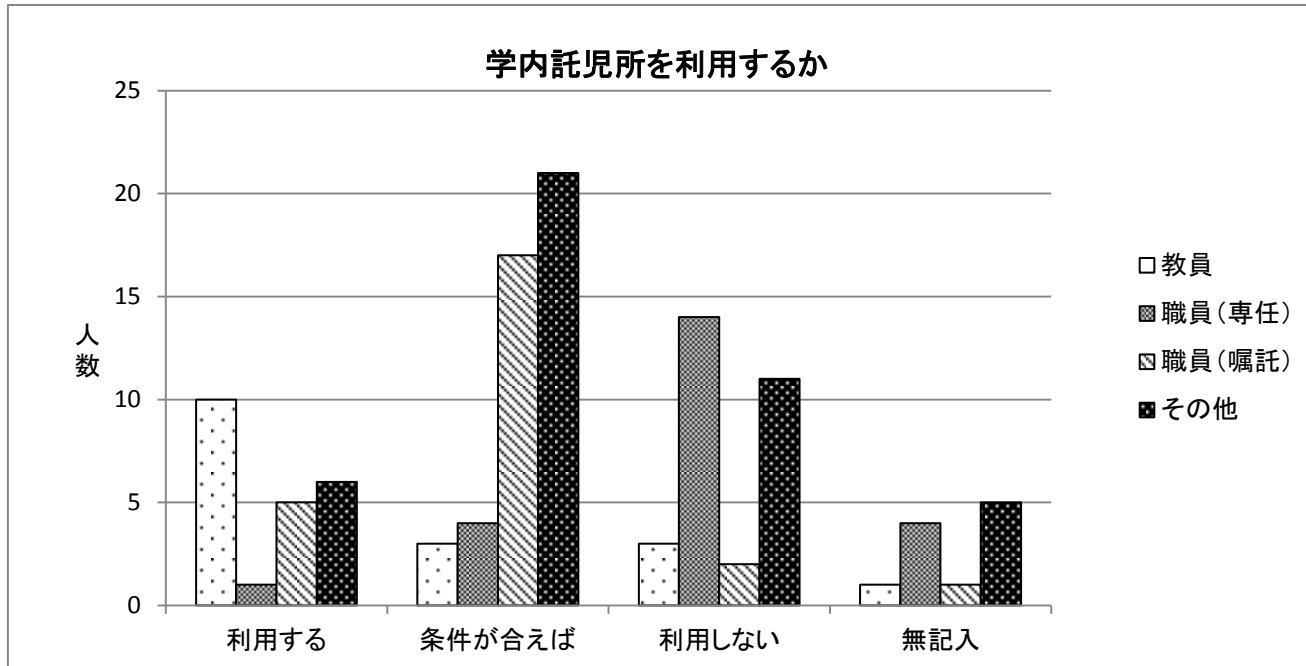
	託児所の必要性			合計		
	必要	どちらともいえない	不要			
教員	16	1	0	17	男性	17名
職員(専任)	14	7	2	23	女性	91名
職員(嘱託)	19	5	1	25		
その他	29	13	1	43		
	78	26	4	108		



雇用形態別にみると非正規雇用層にもっとも必要があると感じている人が多いことがわかる。

雇用形態と託児所を利用するか のクロス表

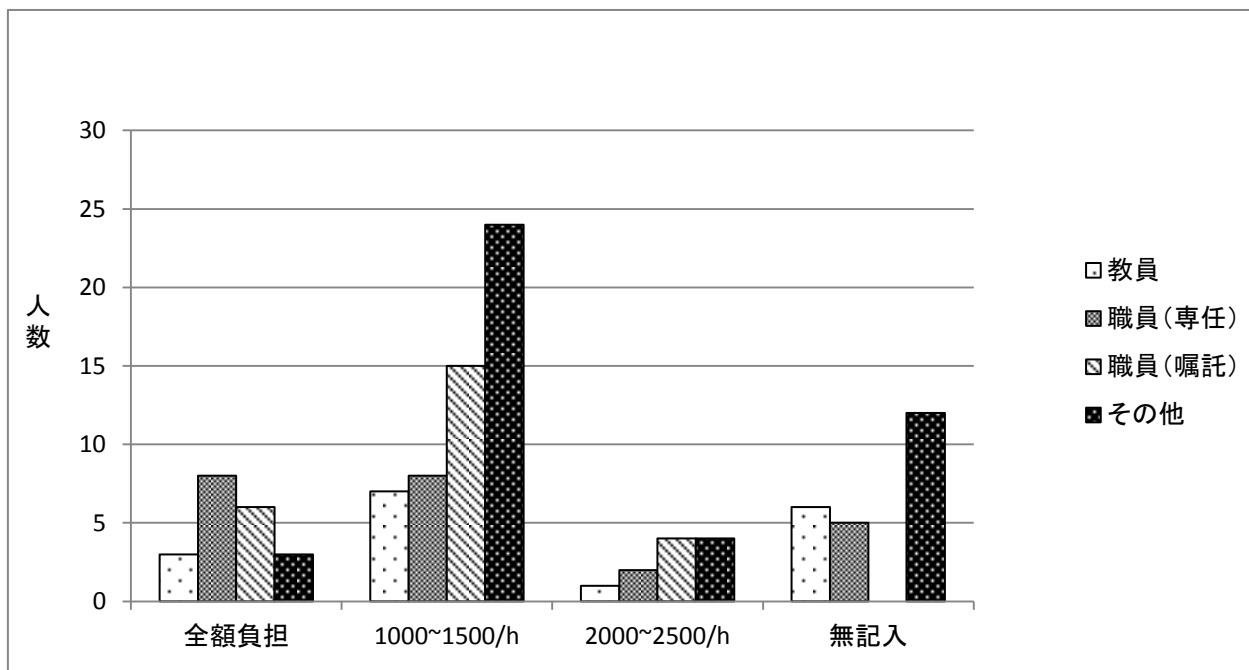
	利用する	条件が合えば	利用しない	無記入	合計
教員	10	3	3	1	17
職員(専任)	1	4	14	4	23
職員(嘱託)	5	17	2	1	25
その他	6	21	11	5	43
	22	45	30	11	108



「条件があえば利用する」と答えた人が非正規雇用層に続き嘱託職員に多かった。専任職員に「利用しない」と答えた人が多かったのは、年齢の高さが反映し、すでに子育て終わっている人が多いことも一つの要因と思われる。

雇用形態と託児料金のクロス表

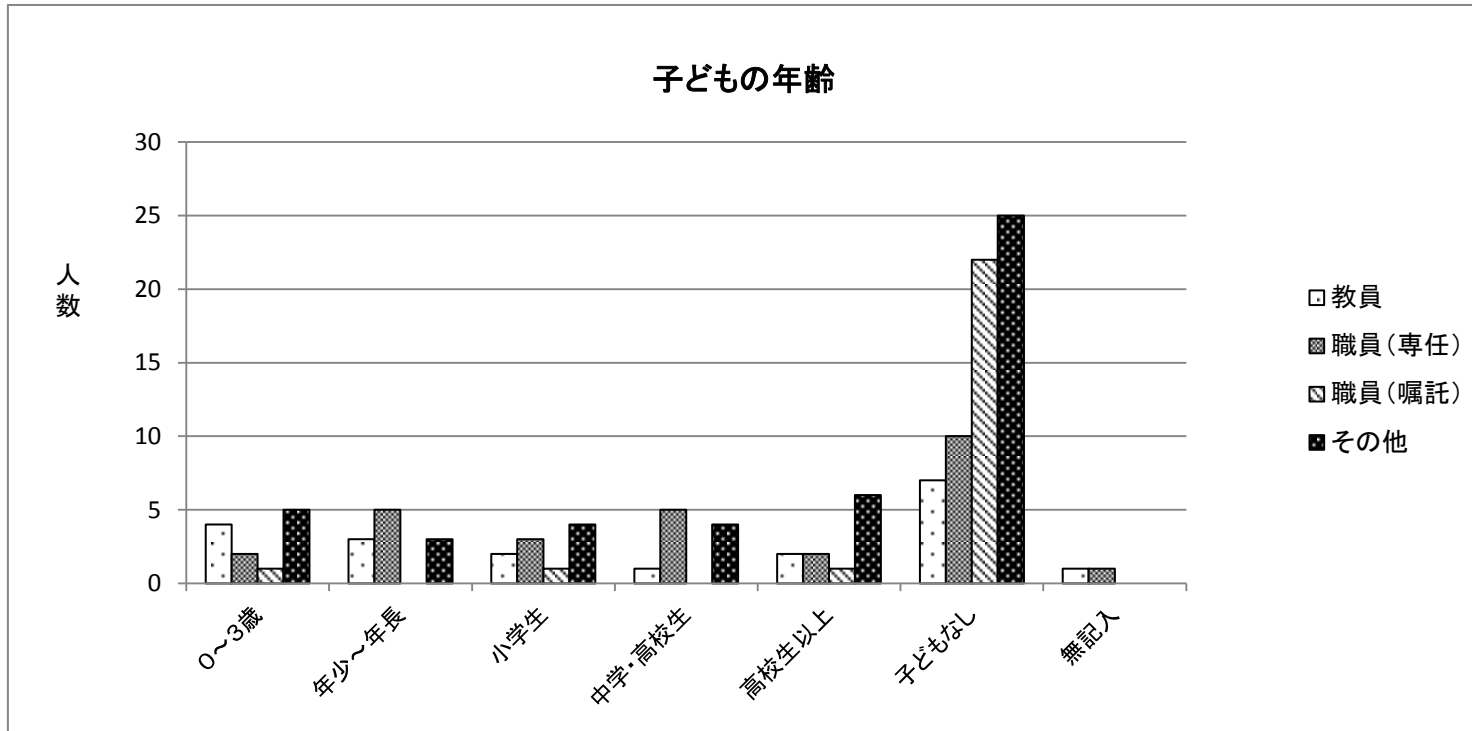
	全額負担	1000~1500/h	2000~2500/h	無記入	合計
教員	3	7	1	6	17
職員(専任)	8	8	2	5	23
職員(嘱託)	6	15	4	0	25
その他	3	24	4	12	43
	20	54	11	23	108



非正規雇用層からは「1時間あたりの単価が安い方がいい」という意見が多く、専任や教員からは「利用しない人との不公平感がないように」という意見が見られた。

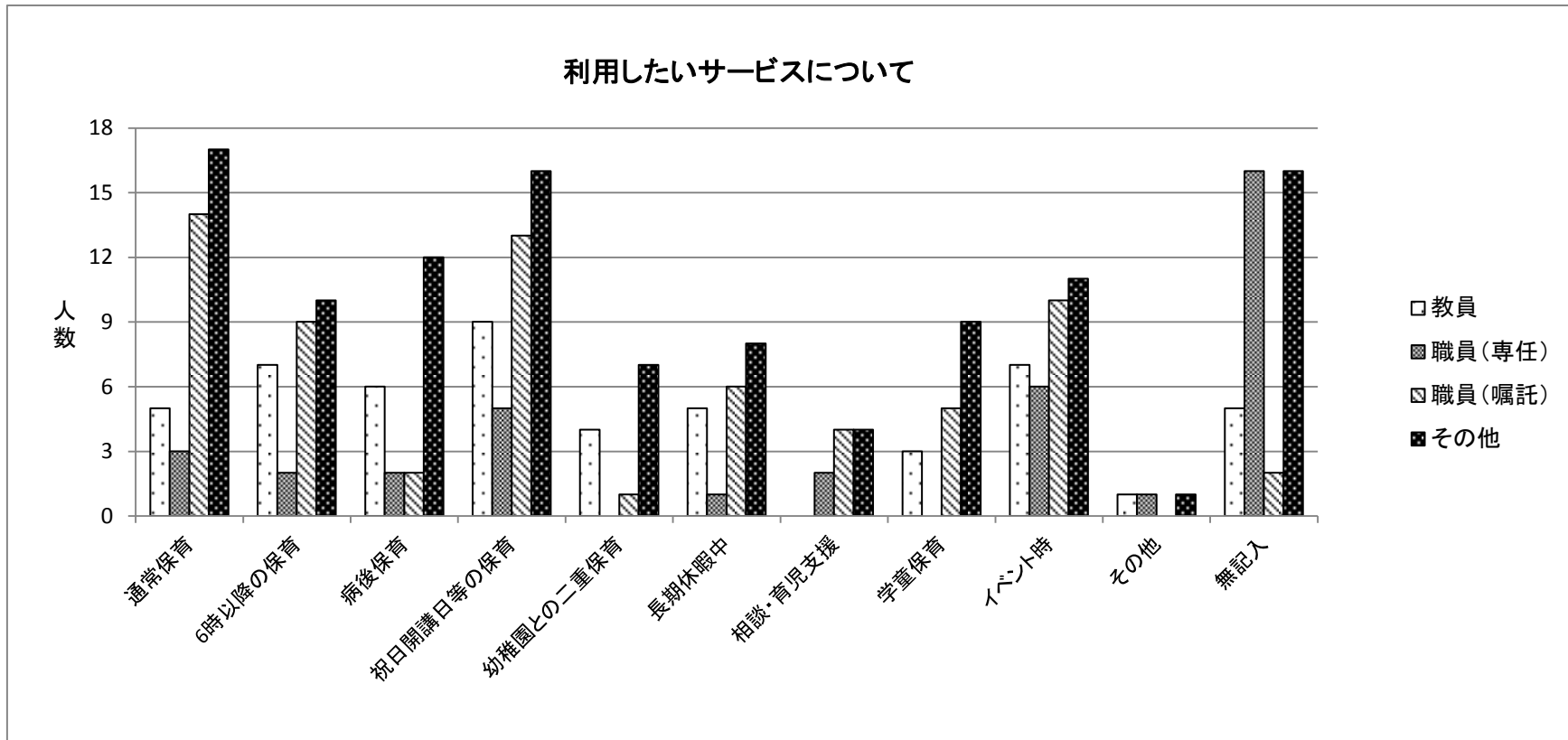
雇用形態と子どもの年齢のクロス表

	0～3歳	年少～年長	小学生	中学・高校生	高校生以上	子どもなし	無記入
教員	4	3	2	1	2	7	1
職員(専任)	2	5	3	5	2	10	1
職員(嘱託)	1	0	1	0	1	22	0
その他	5	3	4	4	6	25	0
	12	11	10	10	11	64	2



雇用形態と利用したいサービス のクロス表

	通常保育	6時以降の保育	病後保育	祝日開講日等の保育	幼稚園との二重保育	長期休暇中	相談・育児支援	学童保育	イベント時	その他	無記入
教員	5	7	6	9	4	5	0	3	7	1	5
職員(専任)	3	2	2	5	0	1	2	0	6	1	16
職員(嘱託)	14	9	2	13	1	6	4	5	10	0	2
その他	17	10	12	16	7	8	4	9	11	1	16



学内託児所に関するアンケート 自由記述

回答者 108 名のうち 48 名から記述があった。全部を紹介できないので、要旨と記述数を以下にまとめる。

- ・学内託児所はあった方がいい・設置を早く強く望む 8
- ・学内託児所があると安心して働ける 8
- ・料金を安く・特に非正規雇用は別料金にできないか 1000 円以上では採算があわない 6
- ・病児・病後保育の対応をしてほしい 5
- ・女子大なのにないのはおかしい 津田塾にはあるのに 4
- ・将来的には学生や聴講生、大学院生なども利用できるようにするのが望ましい 3
- ・祝日開講日と会議や遅番で遅くなるときの必要 2
- ・利用しない人との不公平感がないように 2
- ・通常保育を望む・地域の保育所と連携しては 2
- ・他大学を参考にしては 1

<そのほか育児に関する制度や考え方について>

- ・事務職員が学内託児所に子どもをあずけなくてはならないという状況が好ましいとは思えない。子どもを職場に連れてきてまで働かなければならない状態にならないように、子どものことで休みを取りやすい職場環境にすることが原則。
- ・子どもを育てる教職員が十分な支援を受けられるかどうかは雇用主である学院が教職員をどのように考えているかのあらわれである。適切な支援で子育てを乗り切り、また十分な力を発揮できるように考えてほしい。
- ・託児所以外に時間短縮勤務の期間を現在の 3 年間から小学校入学までに延長できるようにしてほしい。